

横浜市泉スポーツセンター 第4期指定管理者公募要項

令和3年5月

横浜市泉区地域振興課

目次

1	指定管理者制度の趣旨	1
2	公募の概要	1
(1)	対象施設	1
(2)	指定期間	1
(3)	指定管理者の公募、選定及び指定（「6 公募及び選定に関する事項」参照）	1
(4)	施設の休館	1
(5)	指定期間中の光熱水費	1
(6)	問合せ先	1
3	本施設の概要	1
(1)	施設の設置目的	1
(2)	目的達成の手段	2
4	指定管理者が行う業務	2
(1)	施設の運営に関して行わなければならない業務	2
(2)	施設の維持管理に関して行わなければならない業務	2
(3)	自主事業として行うことの可能な業務	2
(4)	その他業務	2
5	職員配置及び経費等	3
(1)	職員配置	3
(2)	指定管理料	3
○参考 1	指定管理料算出の考え方	3
○参考 2	現指定管理者の指定管理料	3
○参考 3	指定管理料の想定額（指定期間総額）	3
(3)	施設運営収入	3
(4)	自主事業収入	4
(5)	維持管理運営費用	4
(6)	自主事業に係る費用	4
(7)	賃金水準の変動への対応	5
(8)	指定管理料の支払	5
(9)	管理口座	5
(10)	リスク分担	5
(11)	業務実施上の留意事項	6
6	公募及び選定に関する事項	10
(1)	公募スケジュール	10
(2)	公募手続きについて	10
(3)	審査及び選定の手続きについて	11
(4)	応募手続きについて	14
(5)	応募条件等について	15
7	協定及び準備に関する事項	17
(1)	協定の締結	17
(2)	協定の主な内容	17
(3)	開業準備及び業務の引継ぎ	17
(4)	指定候補者及び次期指定管理者の変更	17
(5)	指定取消及び管理業務の停止等	18

1 指定管理者制度の趣旨

多様化する市民ニーズに、より効果的・効率的に対応するため、民間の能力を活用しつつ、市民サービスの向上と経費の節減等を図ることを目的として、平成15年6月の地方自治法改正により指定管理者制度が導入されたことで、それまで公共団体等に限られていた「公の施設」の管理運営について、企業及びNPO法人等を含む幅広い団体に委ねることが可能となりました。

このたび、令和4年4月から管理運営を行う指定管理者の選定にあたり、次のとおり事業者を広く公募します。

2 公募の概要

(1) 対象施設

名 称：横浜市泉スポーツセンター（以下「本施設」という。）

所 在 地：横浜市泉区西が岡3-1-1

延床面積：3,754.060㎡

構 造：鉄筋コンクリート造、地上2階

開設年月日：平成4年9月30日

施設内容：第1体育館、第2体育館、第3体育館、弓道場、トレーニング室、研修室、多目的スペースなど

(2) 指定期間

令和4年4月1日から令和9年3月31日まで（5年間）

(3) 指定管理者の公募、選定及び指定（「6 公募及び選定に関する事項」参照）

泉区（以下「区」という。）は、「横浜市泉スポーツセンターの指定管理者の候補者の選定等に関する要綱」に基づき公募を行い、横浜市スポーツ施設条例（以下「条例」という。）第4条第7項に基づき設置される「横浜市泉スポーツセンター指定管理者選定委員会」（以下「選定委員会」という。）の意見を尊重して、指定候補者及び次点候補者（指定候補者を指定管理者として指定できない場合に指定候補者に代わって指定候補者となる者）の選定を行います。

その後、市会の議決を経て、指定管理者として指定します。

(4) 施設の休館

本施設は、指定期間中に全館休館（最長1年間）を伴う空調機設置工事を予定しています。

工事期間等の詳細が決まり次第、工事期間中の施設運営及び指定管理料の取扱い等について区と指定管理者で協議します。

(5) 指定期間中の光熱水費

本施設は、指定期間中に第1・第2体育室へ空調設備を設置し、また照明器具等のLED化を実施する予定です。それらを考慮し、光熱水費については、収入増（空調利用料金）、支出増（空調光熱水費・メンテナンス費等）及び支出減（LED化に伴う光熱水費）の収支差を積算し、区と指定管理者の協議により、指定管理料を調整する場合があります。

(6) 問合せ先

〒245-0024 横浜市泉区和泉中央北五丁目1番1号

横浜市泉区役所 地域振興課 区民利用施設担当（3階308番窓口）

電話：045（800）2396

E-mail：iz-shiteikanri@city.yokohama.jp

3 本施設の概要

(1) 施設の設置目的

本施設は、「スポーツ、レクリエーション等の振興を図り、市民の心身の健全な発達に寄与するため」に設置される施設です。（横浜市スポーツ施設条例第1条）

(2) 目的達成の手段

上述の目的を達成するために、以下のことを実施します。(横浜市スポーツ施設条例第2条)

- ア スポーツ、レクリエーション、文化活動等のための施設の提供に関すること
- イ スポーツ及びレクリエーションの指導及び普及に関すること
- ウ スポーツ及びレクリエーションに関する情報の収集及び提供に関すること
- エ スポーツ及び体力づくりに関する相談に関すること
- オ その他前各号に準ずる事業

具体的な実施業務は、以下「4 指定管理者が行う業務」のとおりとなります。

4 指定管理者が行う業務

(1) 施設の運営に関して行わなければならない業務

- ア 施設等の利用調整、受付、案内業務
- イ 利用者支援業務
- ウ 用具等貸出業務
- エ スポーツ教室業務（基本開館時間内）
- オ 駐車場運営業務（基本開館時間内）
- カ 障害者スポーツの振興に関する業務
- キ 広報業務
- ク 広告業務
- ケ スポーツ振興事業の推進、支援に関する業務
- コ 関係機関及び地域との連携に関する業務
- サ 公衆無線 LAN サービスの提供に関する業務
- シ 新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策に関する業務

(2) 施設の維持管理に関して行わなければならない業務

- ア 建築物保守管理業務
- イ 設備機器管理業務
- ウ 清掃業務
- エ 備品管理業務
- オ 保安警備業務
- カ 外溝植栽管理業務
- キ 環境衛生管理業務
- ク 廃棄物処理業務

(3) 自主事業として行うことの可能な業務

自主事業とは、(1)・(2)以外に指定管理者が行うことの可能な業務のことです。

- ア スポーツ教室事業（基本開館時間外）
- イ 飲食事業
- ウ 物販事業（自動販売機等）
- エ 駐車場事業（基本開館時間外）
- オ その他事業
- カ 改修工事（改修は区が認めた内容に限る）

(4) その他業務

- ア 事業計画書の作成
- イ 事業報告書の作成
- ウ 自己評価
- エ 第三者評価
- オ 区が実施する業務への協力

※基本開館時間とは、横浜市スポーツ施設条例施行規則で定める時間をいう。

5 職員配置及び経費等

(1) 職員配置

本施設の指定管理業務に従事する職員として、常勤換算で2名以上を業務に従事させることとします。本施設の開館時間中は、常時3名以上の職員体制（常勤・非常勤の別は問いません）を確保することとします。職員の資格要件はありません。なお、職員のうち1名を管理運営責任者とし、当該職員は常勤の職員とします。

また、初級以上の障がい者スポーツ指導員（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会）の有資格者を1名以上、施設に配置することとします。

(2) 指定管理料

本施設の運営に係る人件費、事業費、事務費及び管理費等の経費に充てるため、区は指定管理者に対して指定管理料を支払います。管理費には、施設の維持保全にかかる清掃、点検、運転・監視及び修繕等を含む補修費の経費を含みます。

指定管理料は、応募の際に提出された指定管理料提案書を元に、会計年度（4月1日から翌年3月31日まで）ごとに、横浜市の予算の範囲内で、区と指定管理者が協議して決定します（予算は議決案件であり、各年度予算案の議決が条件となります。）。指定管理料の支払い時期及び方法等は協定で定めます。

各年度の指定管理料決定のための協議の際に、選定時の提案書で示された指定管理料の金額から減額する場合には、管理運営や事業内容等（開館日数や開館時間の変更等を含む。）に関して、区と指定管理者の間で協議を行うこととします。

なお、指定管理者による管理運営が、本公募要項や協定で定めた水準に満たなかった場合には、指定管理料の減額を行う場合があります。指定管理料減額の基準及び手続き等については、協定で定めます。

○参考1 指定管理料算出の考え方

「維持管理運営費用（一般管理費含む）」から、「施設運営収入」を減じた額、として提案いただいた金額を、「指定管理料」として支払います。

※算出にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しないものとします。

$\text{指定管理料} = \text{維持管理運営費用（一般管理費含む）} - \text{施設運営収入}$

○参考2 現指定管理者の指定管理料

（単位：千円）

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度※
47,200	46,200	45,300	44,679	44,061	44,070

※年度途中のため変更の可能性あり

○参考3 指定管理料の想定額（指定期間総額）

区が定める本施設の指定管理料（指定期間総額）の想定額は、220,350千円です。
（44,070千円×5年）

(3) 施設運営収入

ア 利用料金収入（基本開館時間内）

本事業では、利用料金制を導入するため、指定管理者は、利用者（指定管理者を含む）が支払う利用料金を、自らの収入とすることができます。利用料金は、市が条例で定める額を上限として、指定管理者が、区の承認を得て定めることができます。

なお、区が適正な利用区分及び利用料金の調査等を行う場合には、協力して実施することとし、変更する結果となった場合には、区と指定管理者の協議により指定期間中に利用区分及び利用料金を変更することがあります。

イ スポーツ教室等事業収入（基本開館時間内）

ウ 広告業務収入

エ 駐車場事業収入

(4) 自主事業収入

指定管理者が、自らの提案により実施する事業に伴う収入。

ア スポーツ教室事業収入（基本開館時間外）

イ 飲食事業収入

ウ 物販事業収入（自動販売機等）

エ 利用料金収入（基本開館時間外）

オ 駐車場事業収入（基本開館時間外）

カ その他目的外使用に伴う収入（公衆電話等）

※施設を物販などに使用する場合は、行政財産の目的外使用となるため、市の許可及び使用料の納入が必要となります。

(5) 維持管理運営費用

指定管理者が行わなければならない維持管理・運營業務に伴う、指定管理者の人件費、施設の修繕費、指定管理者が整備しなければならない備品費、光熱水費、保険料、警備業務や清掃業務を外部委託した場合の委託費、及びその他経費等が含まれます。

なお、1件あたり100万円（消費税別）を上限として指定管理者が行う建物、設備及び備品の修繕費用については、各年度300万円（消費税別）以上の額を修繕費として、指定管理料に含めて提案することとします。応募者が300万円（消費税別）以上の経費がかかると判断した場合は、その金額を計上し提案してください。各事業年度が終了した時点で執行額が提案額に満たなかった場合には、指定管理者は、提案額から執行額を引いた差額を原則区へ返納することとします。提案額を超えた修繕費の取扱いについては、区と指定管理者の協議により定めることとします。

また、建築局が実施する劣化調査や二次点検等に伴い、建築局が指摘する優先的に行うべき修繕等については、区と指定管理者が協議し速やかに対応を行います。

(6) 自主事業に係る費用

自主事業に伴う、スポーツ教室等で施設を利用する際に支払わなければならない利用料金、喫茶などの飲食事業を行う際や自動販売機などを設置する際に区に支払う使用料などが含まれます。

※ 指定管理者の収入と支出

収入	施設の運営に関して指定管理者が行わなければならない業務	指定管理料	・指定管理料
		施設運営収入	ア 利用料金収入（基本開館時間内） イ 駐車場事業収入（基本開館時間内） ウ スポーツ教室等事業収入（基本開館時間内） エ 広告業務収入
	自主事業として行うことの可能な業務	自主事業収入	ア スポーツ教室等事業収入（基本開館時間外） イ 飲食事業収入（喫茶コーナー等） ウ 物販事業収入（自動販売機等） エ 利用料金収入（基本開館時間外） オ 駐車場事業収入（基本開館時間外） カ その他目的外使用に伴う収入（公衆電話等）

支出	施設の運営に関して指定管理者が行わなければならない業務	維持管理運営費用	ア 人件費 イ 修繕費 ウ 備品費 エ 利用料金（基本開館時間内にスポーツ教室等事業で指定管理者が使用する場合） オ 光熱水費 カ 保険料 キ 委託費（警備業務や清掃業務を外部委託した場合等） ク 目的外使用料（広告料） ケ 公租公課 コ 一般管理費 サ その他経費 等
	自主事業として行うことの可能な業務	自主事業に係る費用	ア 利用料金（基本開館時間外にスポーツ教室等事業で指定管理者が使用する場合） イ 目的外使用料（喫茶、自動販売機、等） ウ その他経費 等

(7) 賃金水準の変動への対応

提案された人件費のうち給与等、賃金水準の変動による影響を受けるものについては、2年目以降の指定管理料に反映していきます（以下、この仕組みを「賃金水準スライド」という。）。

このため、収支予算書等に記入する人件費のうち、賃金水準スライドの対象となるものについては、基礎単価と各年度の配置予定人数を乗じた額を記入してください。

なお、賃金水準スライドの対象外の人件費については、必要額を積算し、記入してください。賃金水準スライドの詳細については、別添「指定管理者制度における賃金水準スライドの手引き」を参照してください。

(8) 指定管理料の支払

指定管理料は、応募者からご提案いただいた額を基本とし、毎年度（4月1日から翌年3月31日まで）業務が開始するまでに、区と指定管理者で事業条件等を協議の上、決定します。原則として、指定管理料は4月分を除いて月ごとに前月末までに支払うことを想定していますが、支払時期や方法は協定にて定めます。

(9) 管理口座

会計処理の透明性確保の観点から、指定管理者が当該施設の管理運営のために使用する預金口座については、1施設当たり1口座を原則とします。

(10) リスク分担

指定期間内における主なリスク分担については、次の表のとおりとします。これ以外のリスクに関する対応については、別途協議するものとします。

リスクの種類	リスクの内容	負担者			
		区	指定管理者	分担（協議）	指定管理者（負担限度付）
物価変動	収支計画に多大な影響を与えるもの	○			
	それ以外のもの		○		
賃金水準	賃金水準の上昇による人件費の増加	○			
資金調達	資金調達不能による管理運営の中断等		○		
	金利上昇等による資金調達費用の増加		○		
法令等変更	管理運営に直接影響する法令等の変更			○	

税制変更	消費税（地方消費税を含む）率等の変更			○	
	法人税・法人住民税率等の変更		○		
	事業所税率等の変更			○	
	それ以外で管理運営に影響するもの			○	
許認可等	市が取得すべき許認可等が取得・更新されないことによるもの	○			
	指定管理者が取得すべき許認可等が取得・更新されないことによるもの		○		
管理運営内容の変更	市の政策による期間中の変更	○			
	指定管理者の発案による期間中の変更			○	
組織再編行為等	指定管理者の組織再編行為等により市に発生する費用		○		
市会議決	指定の議決が得られないことによる管理運営開始の延期		○		
需要変動	大規模な外的要因による需要変動			○	
	それ以外のもの		○		
管理運営の中断・中止	市に帰責事由があるもの	○			
	指定管理者に帰責事由があるもの		○		
	それ以外のもの			○	
施設等の損傷及び修繕	指定管理者に帰責事由があるもの		○		
	指定管理者が設置した設備・備品		○		
	それ以外のもの （上段：一件当たり、下段：年間合計）				100 万円
					300 万円
利用者等への損害賠償	市に帰責事由があるもの	○			
	指定管理者に帰責事由があるもの		○		
	市と指定管理者の両者、又は被害者・他の第三者等に帰責事由があるもの			○	
公募要項等	公募要項等の瑕疵・不備に基づくもの	○			
不可抗力※	不可抗力による施設・設備の復旧費用	○			
	不可抗力による管理運営の中断			○	

※ 暴風、豪雨、洪水、高潮、地震、地すべり、落盤、火災、戦乱、内乱、テロ、侵略、暴動、ストライキ及び伝染病・感染症の流行等

(11) 業務実施上の留意事項

ア 関係法令等の遵守について

業務を遂行するうえで、関係する法令等を遵守することとします。

なお、指定期間中にこれらの法令等に改正があった場合は、改正された内容とします。

<主な関連法令>

- (ア) 地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）
- (イ) 地方自治法施行令（昭和 22 年政令第 16 号）
- (ウ) 横浜市スポーツ施設条例（平成 10 年 3 月条例第 18 号）
- (エ) 横浜市スポーツ施設条例施行規則（平成 20 年 3 月規則第 35 号）
- (オ) 横浜市市民協働条例（平成 24 年 6 月条例第 34 号）
- (カ) 横浜市市民協働条例施行規則（平成 25 年 2 月規則第 15 号）
- (キ) 個人情報保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）
- (ク) 横浜市個人情報の保護に関する条例（平成 17 年 2 月条例第 6 号）
- (ケ) 横浜市暴力団排除条例（平成 23 年 12 月条例第 51 号）
- (コ) 労働関係法令（労働基準法、労働組合法、労働安全衛生法、職業安定法、最低賃金法、労働者派遣法、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法及び雇用保険法等）
- (サ) 建物・設備の維持保全関係法令（建築基準法、消防法、電気事業法、水道法及び建築物に

- おける衛生的環境の確保に関する法律等)
- (シ) 環境法令等（エネルギーの使用の合理化に関する法律及び地球温暖化対策の推進に関する法律等）
 - (ス) 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成 25 年法律第 65 号）
 - (セ) 横浜市行政手続条例（平成 7 年 3 月条例第 15 号）

＜その他横浜市の計画・施策等＞

- (ア) 横浜市スポーツ推進計画等

イ 業務の基準・評価について

- (ア) 事業計画書・事業報告書等の提出

指定管理者は、単年度の運営状況だけではなく、指定期間内の継続的改善の仕組みを検討し、毎年度、事業計画書及び事業報告書等を作成し、区に提出します。これらの提出物については、公表することとします。なお、事業計画書及び事業報告書等の内容については、協定等において定めます。

- (イ) 利用者モニタリング及び自己評価の実施

指定管理者は、定期的に利用者から施設運営に関する意見や満足度を聴取し、利用者モニタリングを行うこととします。

また、業務の質やサービスの向上を図ることを目的に、利用者モニタリングの結果及び利用実績の分析等に基づき、年 1 回以上、自己評価を実施し、区に報告することとします。

- (ウ) 第三者評価の実施

横浜市では、客観的な視点からの評価を受けることで、指定管理者が自ら必要な業務改善を行い、サービスの質の向上等を図ることを目的として、第三者評価の受審を指定管理者の義務としています。

本施設の指定管理者は、横浜市が定めた共通評価基準に基づき、横浜市が認定した民間評価機関（NPO 法人、シンクタンク等）による評価を受けることとし、これらの結果は区のウェブサイトで公表されます。

なお、受審時期は、指定期間の 2 年目又は 3 年目のいずれかのうち区との協議により定める時期を原則とします（受審に伴う費用は指定管理者の負担となり、20 万円（消費税別）となります。）。

- (エ) 業務の基準を満たしていない場合の措置

区は、指定管理者の業務が基準を満たしていないと判断した場合、指定管理者が必要な改善措置を講じるよう指示を行います。それでも改善が見られない場合、区は地方自治法第 244 条の 2 第 11 項に基づき、その指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部を停止する場合があります。

この場合、区に生じた損害は指定管理者が賠償するものとします。また、指定管理者は、次期指定管理者が円滑かつ支障なく管理運営を行うことができるよう、必要な引継ぎを行うものとします。

ウ その他

- (ア) 個人情報の保護について

指定管理者が管理業務を実施するにあたっては、横浜市個人情報の保護に関する条例（平成 17 年 2 月横浜市条例第 6 号）の規定が適用され、個人情報の保護に関する法令等を遵守し、個人情報を適正に取り扱うことが必要です。

また、個人情報の保護に関する法律に基づく保有個人データの開示等の請求について、手続等の統一化を図るため、協定等において、区が示す「指定管理者の保有する保有個人データの開示等の請求に関する標準規程」に準拠して、指定管理者が「保有する保有個人データの開示等の請求に関する規程」を作成し、保有個人データの開示等の請求に対して適切に対応することとします。

さらに、区等が実施する個人情報保護に関する必要な研修に参加するとともに、従事者に対して必要な研修を行うこととします。

(イ) 情報公開の実施について

指定管理者が管理業務を実施するにあたっては、「横浜市の保有する情報の公開に関する条例」（平成 12 年 2 月横浜市条例第 1 号）の規定に準じて、情報公開の対応を適切に行うことが必要です。

また、協定等において、区が示す「指定管理者の情報の公開に関する標準規程」に準拠して、指定管理者が「情報公開規程」を作成し、文書等の開示の申出に対して適切に対応することとします。

(ロ) 事故への対応・損害賠償について

指定管理者は、施設において事故防止に努めるとともに、発生した事故への損害賠償等の対応に関して、次のとおり義務を負うこととします。

- a 指定管理者の責めに帰すべき事由により、区又は第三者に損害を与えた場合には、指定管理者においてその損害を賠償しなければなりません。
- b 施設における事故防止及び事故発生時の対応に備えて、指定管理者はあらかじめ事故防止・事故対応マニュアルを定めるとともに、事故発生時には直ちにその旨を区へ報告しなければなりません。
- c 指定管理者は、損害保険会社により提供されている指定管理者に対応した施設賠償責任保険に加入し、当該保険からの保険金により損害賠償責任に対応するものとします。なお、対人補償の保険金額は対人賠償 1 名、対物賠償 1 事故につき、それぞれ 1 億円以上とし、区を追加被保険者とします。

(ハ) 苦情・要望について

指定管理者は利用者等から寄せられる苦情や要望に十分応えることのできる体制を整え、苦情・要望処理報告書を作成し、区に報告することとします。

(ニ) 利用の継続

業務の開始にあたっては、現に本施設を利用している利用者の継続利用を妨げないこととします。また、利用者に関する情報は、利用者の同意を得て、指定期間終了時には次期指定管理者に引き継ぐこととします。

(ホ) 事業の継続が困難となった場合の措置

- a 指定管理者の責めに帰すべき事由による場合
区は地方自治法第 244 条の 2 第 11 項に基づき、指定の取り消しをすることができるものとします。その場合は区に生じた損害は指定管理者が賠償するものとします。また、指定管理者は、次期指定管理者が円滑かつ支障なく本施設の管理運営業務を遂行できるよう、次期指定管理者に対して引継ぎを行うものとします。
- b 当事者の責めに帰することができない事由による場合
区及び指定管理者双方の責めに帰することができない事由により、事業の継続が困難になった場合は、事業継続の可否について協議するものとします。

(ヘ) 協定書の解釈に疑義が生じた場合等の措置

協定書の解釈に疑義が生じた場合又は協定書に定めのない事項が生じた場合については、区と指定管理者は誠意を持って協議するものとします。

(ヘ) 公租公課

指定管理者は法人に係る市民税等の納税義務者となる可能性がありますので、財政局主税部法人課税課、所轄の県税事務所及び税務署にお問合せください。

(ヘ) 施設情報の定期的報告

建物・設備の維持保全の状況について、指定管理者が各種点検により確認し、横浜市に報告します。確認及び報告は、横浜市が策定している「維持保全の手引き」及び「施設管理者点検マニュアル」に基づいて行います。

なお、昇降機設備において、FM 契約（フルメンテナンス）による保守管理を行っているため、これを継続してください。

(コ) 災害等発生時の対応

本施設は、現段階では横浜市防災計画等に遺体安置所及び補完施設としての位置づけがあるため、指定管理者はその開設及び運営等に協力していただきます。このため、別途横浜市と「災害時等における施設利用の協力に関する協定」を締結のうえ、本市の「指定管理者災害対

応の手引き」にしたがい、あらかじめ必要な体制整備等を行う必要があります。

(サ) 廃棄物の対応

施設から発生する廃棄物の抑制に努めるとともに、横浜市の分別ルールに沿って適切に分類を行い、可能な限り資源化していくなど「横浜市一般廃棄物処理基本計画」等に沿った取組を推進することとします。

(シ) 自動販売機等について

自動販売機等の設置については、行政財産の目的外使用許可の申請を行うものとします。なお、自動販売機使用にかかる電気料金は、指定管理料で支出する光熱水費からは除外します。

指定管理者が自動販売機業者等から徴収する売上手数料については、指定管理者が当該業者と締結する委託契約書等に規定するとともに、指定管理者の収入として、適正に経理することとします。

(ス) 横浜市暴力団排除条例の遵守

横浜市暴力団排除条例の施行(平成24年4月1日)にともない、指定管理者は公の施設の利用等が暴力団の利益になると認められる場合、その利用許可等を取り消すことができるとしています。指定管理者は当該条例の趣旨に則り、適正に施設の管理運営を行ってください。

(セ) 横浜市中企業振興基本条例を踏まえた取組の実施

横浜市では、平成22年4月1日より本条例を施行し、市内中企業への優先発注の徹底に努めています。

指定管理者は、本条例の趣旨を踏まえ、修繕等の発注、物品及び役務の調達等にあたって、市内中企業への優先発注に努めるものとします。

なお、横浜市は本施策の取組状況を確認するため、指定管理者に対して、指定期間中の発注状況についての調査を実施する場合があります。

(ソ) 財務状況の確認

安定的な管理運営が確保されているかを確認するため、区は年度に1回、指定管理者となっている団体(共同事業体の場合は、すべての構成団体)について選定時と同様の財務状況確認を行います。そのため、各団体から財務諸表等の財務状況について確認できる書類を提出していただく必要があります。

(タ) ウェブサイトについて

a 最低限掲載すべき情報

指定管理者が本施設のウェブサイトを設置する場合には、次の情報を掲載することとします。

(a) 指定管理者名

(b) 本施設の事業報告書等が掲載されている横浜市のウェブページのリンク

b セキュリティ及び情報ウェブアクセシビリティへの配慮

指定管理者は、ウェブサイト等インターネットを利用して情報を受発信する場合は、すべての人が安全かつ適切に情報を得られるよう、セキュリティを確保するとともに、「ウェブアクセシビリティ仕様書」に基づき、「JIS X 8341-3:2016 の適合レベル AA」に準拠したウェブアクセシビリティに配慮することとします。

(チ) 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律に基づく合理的配慮の提供

指定管理者は、障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合において、その実施に伴う負担が過重でないときは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する横浜市職員対応要領」を参考に合理的配慮の提供に努めることとします。

(ツ) 人権擁護への取組

指定管理者は従事者への人権啓発研修等の実施に努め、人権擁護への取組を進めること。

(テ) その他市政への協力

その他環境対策や区局の運営方針等、市政に関して協力するよう努めることとします。

(ト) その他

その他、記載のない事項については、区と協議を行なうこととします。

6 公募及び選定に関する事項

(1) 公募スケジュール

ア 公募の周知及び応募要項の公開	令和3年5月28日（金）
イ 現地見学会及び応募説明会	令和3年6月11日（金）
ウ 公募要項等に関する質問受付	令和3年6月14日（月）から令和3年6月18日（金）まで
エ 質問への回答	令和3年6月30日（水）以降（予定）
オ 応募書類の受付期間	令和3年7月14日（水）から令和3年7月15日（木）まで
カ 審査・選定（面接審査実施）	令和3年8月10日（火）
キ 選定結果の通知・公表	令和3年9月上旬（予定）
ク 指定管理者の指定	令和3年12月下旬（予定）
ケ 指定管理者との協定締結	令和4年2月下旬（予定）

(2) 公募手続きについて

ア 公募の周知及び公募要項の公開

指定管理者の公募について、泉区地域振興課のウェブサイトに掲載し、広くお知らせします。
※窓口配付は行いません。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/izumi/kusei/shiteikanrisha/kuminshitei/sportsshiteikanri.html>

イ 現地見学会及び応募説明会

現地見学会、応募説明会を次のとおり開催します。応募を予定される団体は、できる限りご参加ください。

(ア) 開催日時

令和3年6月11日（金）午後2時から午後4時まで（予定）

(イ) 開催場所

横浜市泉スポーツセンター 研修室

(ウ) 参加人数

各団体2名以内とします。

ただし、共同事業体の参加団体が3以上の場合は、各団体1名までの参加ができますので、その旨を記入の上、E-mailでお申込ください。

(エ) 申込方法

参加を希望される団体は、令和3年6月9日（水）午後5時までに、E-mailで「横浜市泉スポーツセンター現地見学会・応募説明会申込書」（様式26）を泉区地域振興課に送付してください。受信確認メールの返信をもって受付完了となります。

なお、説明会当日は、公共交通機関をご利用ください。

(オ) 送付先

泉区地域振興課 iz-shiteikanri@city.yokohama.jp

(カ) 注意事項

- ・当日は、公募要項、業務の基準等の公募資料は配布しませんので、各自でご持参ください。
- ・当日、社員（職員）であることを証明する書類（名刺可）を確認させていただきます。
- ・後述する「(5) イ 欠格事項」に該当する団体は参加することができません。
- ・現地見学会及び応募説明会以外の日に来館することは制限しませんが、案内や質問については一切応じません。また、いかなる場合においても事務室内の書類の撮影、記録を禁止します。

ウ 公募要項等に関する質問の受付

公募要項の内容等に関する質問を次のとおり受け付けます。

(ア) 受付期間

令和3年6月14日（月）午前9時から令和3年6月18日（金）午後5時まで

(イ) 受付方法

E-mailで「横浜市泉スポーツセンターの指定管理者公募要項等に関する質問書」(様式27)を泉区地域振興課に送付してください。受信確認メールの返信をもって受付完了となります。なお、電話でのお問合せには応じかねますのであらかじめご了承ください。

(ウ) 送付先

泉区地域振興課 iz-shiteikanri@city.yokohama.jp

エ 質問への回答

令和3年6月30日(水)以降(予定)に、次のウェブページで回答を公表します。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/izumi/kusei/shiteikanrisha/kuminshitei/sportsshiteikanri.html>

オ 応募書類の受付

(ア) 応募書類

「6(4)応募手続きについて」を参照

(イ) 受付期間

令和3年7月14日(水)午前9時から令和3年7月15日(木)午後5時まで

(ウ) 受付方法

泉区地域振興課まで、持参いただくか又は記録が残る送付方法(簡易書留等)でご提出ください(受付期間内必着)。

(エ) 提出先

〒245-0024 横浜市和泉中央北五丁目1番1号

横浜市泉区役所地域振興課区民利用施設担当(区役所3階308番窓口) 宛

(3) 審査及び選定の手続きについて

ア 審査方法

審査は、応募者の提出書類及び面接審査等に基づき、指定管理者評価基準項目に従い総合的に実施します。また、面接審査ではプレゼンテーションを行っていただき、それに対する質疑を行います。このため、団体の代表者又は代理人合計3名(管理運営責任者となる予定の者を含む)までの出席をお願いします。

面接審査に係る詳細は、応募者に後日お知らせいたします。

イ 選定委員会(敬称略、50音順)

氏 名	所 属 等
熊谷 雄三	しらゆり地区スポーツ推進委員連絡協議会 会長
佐野 瞳	泉区連合自治会町内会長会 副会長
佐野 昌行	日本体育大学スポーツマネジメント学部准教授
林部 正明	東京地方税理士会戸塚支部所属 税理士
武関 いと子	泉区保健活動推進員会 会長

※所属等は令和3年5月現在

ウ 会議の公開

選定委員会の会議は、原則公開とします。ただし、公開しないことが適当であると選定委員会が判断した場合は、会議の一部又は全部を公開しないこととします。

エ 評価基準項目について

応募にあたっては、「横浜市泉スポーツセンター 第4期指定管理者 業務の基準」を踏まえて、次表の事項について提案を求めます。

なお、評価は次の合計150点及びその他特記加点・減点事項の加減をもって実施します。

項目	審査の視点	配点
1 団体の状況（様式 8）		15
(1) 施設の管理運営の基本方針	本市の行政課題及び施策を踏まえた施設管理の基本方針について示されているか。	5
(2) 基本方針を実施する為の目標及び実施策	基本方針を踏まえた当該施設分野等の目標及び実施策について示されているか。	5
(3) 安定的な経営体力と適正な経営情報開示（経営の透明性）	天災等の発生後も安定的な施設の管理運営を行うことが可能な経営体制、経営体力、適正な経営の情報開示（透明性）、類似施設の管理実績について示されているか。	5
2 施設の平等・公平な利用の確保（様式 9）		15
(1) 公共性・公平性に基づいた利用の確保	誰もが平等・公平に利用できる仕組みづくりと、多様な利用者への配慮について示されているか。	5
(2) 多言語化に関する取組	施設立地に配慮し、外国人利用者対応を踏まえた、多言語や多指向に対応する具体的な方策が示されているか。	5
(3) 障害者の利用支援に関する取組	障害者の利用支援に対して、具体的な提案が示されているか。	5
3 施設の効用の最大限発揮（様式 10）		25
(1) 利用者本位のサービス提供・利用者の支援	利用者の利便性向上のための新たな取組を実践・実行できる体制について示されているか。貸切、個人の利用者に対しての支援策について示されているか。	5
(2) 広報・利用促進活動	実現可能な広報・利用促進策を有しているか。魅力ある教室の開催やイベント等によって、集客力を向上させる計画が示されているか。	5
(3) スポーツ教室等の計画	具体性のあるスポーツ教室等の事業計画及び想定スケジュールが示されているか。	5
(4) 自主事業の計画	利用者の多様なニーズに対応し、サービス向上に資する、具体的な自主事業計画が示されているか。	5
(5) 業務履行体制	安全かつ効率的に業務を履行できる体制について示されているか。	5
4 本市の重要施策を踏まえた取組（様式 11）		5
(1) 個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注など、本市の重要施策を踏まえた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護の取組に具体性があるか。情報公開への取組が適切であるか。 ・ヨコハマ 3 R 夢プラン、人権尊重、男女共同参画推進など横浜市の重要施策を踏まえた、取組となっているか。 ・市中小企業振興基本条例の趣旨を踏まえた取組となっているか。 	5
5 管理運営経費（様式 12）		30
(1) 利用料金等収入増への取組	利用料金等の収入計画が適切であり、増収策が具体的、効果的であるか。	10
(2) 施設の課題等に応じた費用配分	利用者サービスのための経費や修繕費への配分など、施設の特性や課題に応じた、費用配分となっているか。	10
(3) 適正な委託・調達・雇用	業務委託内容及び金額、事業者選定方法の計画について示されているか。	5
(4) 指定管理料の額	指定管理料の設定は、区が想定した金額以下となっているか。	5

6 施設管理（様式 13）			20
(1) メンテナンス及び環境保持・環境配慮	施設の点検、清掃、外構植栽の管理等の予算について示されているか。また、地球温暖化対策等について示されているか。		10
(2) 修繕等への取組	施設の安全確保及び長寿命化の観点から、適切かつ積極的な修繕計画及びその予算が示されているか。建築局が実施する劣化調査や二次点検等を考慮し、優先的に行うべき修繕等に対応可能な計画となっているか。		10
7 安全管理（様式 14）			10
(1) 平常時の体制	安全・安心に利用できる体制について示されているか。また、事業体全体の危機管理体制について示されているか。		5
(2) 緊急時の体制	緊急時の体制及び救急体制について示されているか。また、補償体制について示されているか。		5
8 地域との協力（様式 15）			20
(1) 地域支援	地域におけるスポーツ振興事業の取組について具体的に示されているか。		10
(2) 地域連携・地域貢献	地域連携や地域貢献に対する取組について具体的に示されているか。		10
9 モニタリング（様式 16）			5
(1) 自己評価・第三者評価	事業の評価を実行するとともに、PDCAマネジメント等の事業改善策について示されているか。		5
10 新型コロナウイルス感染症等の対策に関する取組（様式 17）			5
(1) 新型コロナウイルス感染症等への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に係る具体的な取組や考え方が提案されているか。（具体的感染防止対策、教室事業等実施時の工夫、料金収入減に対する対応策等） ・with/after コロナを見据えた施設運営、事業展開の方針が示されているか。 		5
合計			150
11 加減点項目			-5～+10
(1) 市内中小企業等であるか	市内中小企業等 ・市内中小企業 ・中小企業等協同組合法第3条に規定する事業協同組合、事業協同小組合及び信用協同組合のうち、市内に住所を有する者 ・地域住民を主体とした施設の管理運営等のために、地域住民を中心に設立された団体 ※共同事業体の場合は、代表団体が市内中小企業等であること。		5・0
(2) 前期の管理運営の実績（現在の指定管理者のみ）	実績が良好であるか。		-5～+5

※ 財務状況の評価が著しく悪い場合は、選定から除外する場合があります。

※ 指定候補者及び次点候補者となるためには、選定委員会の定める最低基準点（加減点項目を除く評価基準項目の合計の満点の6割以上）を満たすことが必要です。最低基準に満たない場合は応募団体が1団体のみであっても指定候補者として選定せず、再度公募を行います。

オ 選定結果の通知及び応募書類の公表

選定結果は、応募者に対して速やかに通知します。また、選定の経過及び結果は、区のウェブ

ページへの掲載等により公表します。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/izumi/kusei/shiteikanrisha/kuminshitei/sportsshiteikanri.html>

なお、指定候補者の応募書類については、原則として、指定の議決後に公表します。

カ 指定管理者の指定

市会の議決後に、指定管理者として指定します。(令和3年12月下旬予定)

キ 指定管理者との協定締結

「7 協定及び準備に関する事項」を参照

(4) 応募手続きについて

ア 指定申請書及び事業者に関する書類

- ①正本(1部) 様式を順に並べ、インデックスを付さずにクリップ留めで提出
- ②副本(8部) 様式を順に並べ、インデックスを付してファイル綴りをして提出
※副本の一部については、ファイルやステープラー等で留めず、インデックスも付さず、クリップ留めで提出
- ③副本(8部) 様式を順に並べ、応募団体が特定できないように(黒塗り等)して、インデックスを付してファイル綴りをして提出
※書類審査及びプレゼンテーション審査については、応募団体を伏せて実施します。黒マジック等で塗りつぶしただけでは、文字が透けてしまう場合が多いため、黒塗り版のデータを作成し、プリントアウトするなど工夫してください。

用紙サイズは原本でサイズが決まっているもの以外は、A4サイズに統一してください。

(ア) 指定申請書(様式1)

(イ) 賃金水準スライドの対象となる人件費に関する提案書(様式 賃-1)

※「指定管理者制度における賃金水準スライドの手引き」より

(ウ) 団体の概要(様式2)

(エ) 役員等氏名一覧表(様式3)及び様式のエクセルファイルデータ(CD-R)

(オ) 欠格事項に該当しない宣誓書(様式4)

(カ) 定款、規約その他これらに類する書類

(キ) 法人にあっては、法人の登記事項証明書

(ク) 指定申請書を提出する日の属する事業年度の収支予算書及び事業計画書並びに前事業年度の収支計算書及び事業報告書(様式自由)

(ケ) 直近3か年の事業年度の貸借対照表、財産目録、損益計算書等。任意団体においては、これらに類する書類

(コ) 税務署発行の納税証明書「その3の3」(法人税・消費税及び地方消費税について未納税額の無い証明書になります。)

(サ) 横浜市税の納税状況調査の同意書(様式5)

応募時点で横浜市に対して納税義務のない団体についても提出の必要があります。なお、指定管理者として指定された後は、この同意書をもとに、毎年度横浜市への納税状況(横浜市の課税状況の有無を含め)について状況調査を行います。

(シ) 法人税及び法人市民税の課税対象となる収益事業等を実施していないことの宣誓書(様式6)

公益法人又は人格のない社団等で、収益事業等を実施していないことにより、法人税・法人市民税の申告義務がなく、かつ実際に申告税額がない場合に、提出の必要があります。

(ス) 労働保険(労災・雇用)の加入を確認できる書類

労働局、労働基準監督署又は労働保険事務組合発行の労働保険料の領収書の写し(直近の1回分)等

(セ) 健康保険の加入を確認できる書類

年金事務所又は健康保険組合発行の健康保険料の領収書の写し(直近の1回分)等

- (ウ) 厚生年金保険の加入を確認できる書類
年金事務所又は健康保険組合発行の厚生年金保険料の領収書の写し（直近の1回分）等
- (ク) 団体の現在の組織、人事体制を示す人事労務関係の書類（就業規則、給与規定等）
- (ケ) 設立趣旨、事業内容のパンフレットなど団体の概要がわかるもの
- ※ 各種保険加入の必要がないため、(ス)、(セ)及び(ウ)のいずれかの領収書の写し等の提出ができない場合は、「労働保険、健康保険及び厚生年金保険の加入の必要がないことについての申出書」（様式7）を提出してください。
- ※ 共同事業体に関する取扱い
応募にあたっては、代表団体を決め、代表団体が応募書類を提出してください。(ウ)から(ケ)までの書類については、構成団体それぞれについて、書類を提出するとともに、「団体の概要（様式2）」に、次の2点の書類を添付してください。
 - (ウ)－a 共同事業体の結成に関する申請書（様式2－2）
 - (ウ)－b 共同事業体連絡先一覧（様式2－3）

イ 提案書（様式8～18）及び収支計画（様式19、20～24）

「6（3）エ 評価基準項目について」を参照し作成してください。

- ①正本（1部）様式を順に並べ、インデックスを付さずにクリップ留めで提出
- ②副本（8部）様式を順に並べ、インデックスを付してファイル綴りをして提出（「ア 指定申請書及び事業者に関する書類」の後ろに綴る）
※副本の一部については、ファイルやステープラー等で留めず、インデックスも付さず、クリップ留めで提出
- ③副本（8部）様式を順に並べ、応募団体が特定できないように（黒塗り等）して、インデックスを付してファイル綴りをして提出（「ア 指定申請書及び事業者に関する書類」で黒縫りにしたものの後ろに綴る）
※書類審査及びプレゼンテーション審査については、応募団体を伏せて実施します。黒マジック等で塗りつぶしただけでは、文字が透けてしまう場合が多いため、黒塗り版のデータを作成し、プリントアウトするなど工夫してください。

また、CD-R に保存し、PDF データでも提出してください。ただし、収支計画（様式20～24）部分については、Excel データでも提出してください。なお、CD-R については返還しません。任意様式も可としますが、A4サイズに統一し、総計150ページ以内としてください。

(5) 応募条件等について

ア 応募者の資格

法人その他の団体、又は複数の法人等が共同する共同事業体であること（法人格は不要。ただし個人は除く）

イ 欠格事項

次に該当する団体は、応募することができません。

- (ア) 法人税、法人市民税、消費税及び地方消費税等の租税を滞納していること
- (イ) 労働保険（雇用保険・労災保険）及び社会保険（健康保険・厚生年金保険）への加入の必要があるにもかかわらず、その手続きを行っていないもの
- (ウ) 会社更生法・民事再生法による更生・再生手続中であること
- (エ) 指定管理者の責に帰すべき事由により、2年以内に指定の取消を受けたものであること
- (オ) 地方自治法施行令第167条の4の規定により、横浜市における入札参加を制限されていること
- (カ) 選定委員が、応募しようとする団体の経営または運営に直接関与していること
- (キ) 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。）又は暴力団経営支配法人等（横浜市暴力団排除条例（平成23年12月横浜市条例第51号）第2条第5号に規定する暴力団経営支配法人等をいう。）であ

ること

※本項目については、提出いただく「役員等氏名一覧表（様式3）」により、横浜市から神奈川県警察本部に対し調査・照会を行います。

- (ク) 2年以内に労働基準監督署からは正勧告を受けていること（仮に受けている場合には、必要な措置の実施について労働基準監督署に報告済みでないこと）

ウ 共同事業体に関する取扱い

共同事業体の場合には、構成するすべての団体が欠格事項の(ア)から(ク)までのいずれにも該当しないとともに、次の事項を満たしていることが必要です。

- (ア) 協定締結時までに、代表団体及び責任分担を明確に定めた組合契約を締結し、組合契約書の写しの提出が可能であること
- (イ) なお、応募以降の構成団体の変更は認めません。

エ 中小企業等協同組合に関する取扱い

中小企業等協同組合の場合には、本指定管理業務を担当するすべての組合員が欠格事項の(ア)から(ク)までのいずれにも該当しないこと。

オ 公募要項の承諾

応募者は、応募書類の提出をもって、本公募要項の記載内容を承諾したものとみなします。

カ 接触の禁止

選定委員、横浜市職員その他の本件関係者に対して、本件応募について直接・間接を問わず接触を禁じます。

キ 重複応募の禁止

同一案件に対して、複数案の応募に参画することはできません。また、一つの団体が複数の共同事業体に参加することも認められません。

ク 応募内容変更・追加の禁止

提出された書類の内容の変更又は書類の追加はできません。ただし、選定委員会が認めた場合はこの限りではありません。

ケ 団体職員以外による、次の行為の禁止

応募にあたって、応募団体（共同事業体に当たっては構成団体、中小企業等協同組合に当たっては組合員となっている団体）の職員以外が、次の行為を行うことを禁止します。

- (ア) 現地見学会・応募説明会への代理出席
- (イ) 事業計画書等、提出書類の作成（作成に関する技術的な助言等は可とします）
- (ウ) 選定委員会の面接審査への出席

コ 応募者の失格

応募者が次の事項に該当した場合は、失格となる場合があります。

- (ア) カからケまでの禁止事項に該当するなど、本公募要項に定める手続きを遵守しない場合
- (イ) 応募書類に虚偽の内容を故意に記載した場合

サ 応募書類の取扱い

応募書類は理由を問わず返却しません。

シ 応募書類の開示

指定管理者及び指定候補者の応募書類については、「横浜市の保有する情報の公開に関する条例」に基づく情報開示請求が提出された場合は、原則として請求者に対して開示されることとなります。

その他、区が必要と認めるときは、提出書類の全部又は一部を使用できるものとします。

ス 応募の辞退

正当な理由がある場合に限り、応募書類を提出した後に辞退することを認めます。その際には、「辞退届（様式25）」を提出してください。

セ 費用負担

応募に関して必要となる費用は団体の負担とします。

ソ 提出書類の取扱い・著作権

区が提示する設計図書（平面図等）の著作権は区及び設計者に帰属し、団体の提出する応募書類の著作権は作成した団体に帰属します。

7 協定及び準備に関する事項

(1) 協定の締結

選定委員会による審査及び選定後、区は指定候補者と細目について協議を行い、横浜市会の議決を経て指定管理者として指定された後に、基本協定を締結します。

また、毎年度、指定管理料の金額等に関する年度協定を締結します。

(2) 協定の主な内容

- ア 管理運営業務の範囲及び内容
- イ 法令の遵守
- ウ 管理運営業務実施上の規定等（第三者への再委託、緊急時の対応及び施設の保全・改修等）
- エ 管理運営費用に関する事項（口座管理、指定管理料支払い方法の原則及び光熱水費支払い方法の原則等）
- オ 管理運営業務実施状況の確認方法及び確認事項
- カ 施設の維持保全及び管理に関する事項
- キ 施設内の物品等の所有権の帰属に関する事項
- ク 債権債務の譲渡等の禁止に関する事項
- ケ 管理運営業務に関し保有する個人情報の保護に関する事項
- コ 指定期間満了に関する事項
- サ 指定の取消及び管理業務の停止に関する事項
- シ 協定内容の変更に関する事項
- ス その他必要な事項

(3) 開業準備及び業務の引継ぎ

ア 開業準備

指定期間の開始までに準備業務として、①事業計画書作成業務、②区との連携・調整業務を行っていただきます。詳細については指定候補者に提示します。

イ 業務の引継ぎ

指定管理者が現在の指定管理者と変更になった場合には、両者の間で引継ぎ等を行っていただきます。この場合、引継ぎに要する費用については、指定管理料に含むものとします。

ウ 次回公募への協力

次の指定管理者の選定については、次の指定管理期間開始の原則1年前に公募等の手続きを実施する予定です。その際、指定管理者には、公募に必要な資料の提供や現地見学会の実施等に関して、協力をしてください。

(4) 指定候補者及び次期指定管理者の変更

区は、市会の議決を経るまでの間に、指定候補者を指定管理者に指定することが著しく不適当と認められる事情が生じた場合には、指定しないことができるものとします。また、指定から指定期間開始までの協議の過程において指定管理業務の実施が困難であることが明らかになった場

合及び協議が成立しない場合には、当該団体の指定を取り消すことができるものとします。

上記の場合には、次点候補者を指定候補者として、協議を行い、指定管理者の候補団体として市会に議案を提出します。

なお、市会の議決が得られなかった場合においても、本施設に係る業務及び管理の準備のために支出した費用については、一切補償しません。

(5) 指定取消及び管理業務の停止等

指定管理者が行う施設の管理の適正を期するために横浜市が行う指示に従わないとき、その他指定管理者による管理を継続することが適当でないと認められるときは、地方自治法第 244 条の 2 第 11 項の規定に基づき、指定管理者の指定を取り消し、又は期間を定めて管理業務の全部若しくは一部の停止を命ずることがあります。

指定取消又は管理業務の停止を行う必要がある場合の例として、次のようなものが考えられます。

- ア 当該施設の設置条例又は協定の規定に違反したとき
- イ 地方自治法第 244 条の 2 第 10 項の規定に基づく報告の要求又は調査に対して、これに応じず又は虚偽の報告を行い、若しくは調査を妨げたとき
- ウ 地方自治法第 244 条の 2 第 10 項の規定に基づく指示に従わないとき
- エ 本公募要項に定める資格要件を失ったとき
- オ 申込みの際に提出した書類の内容に虚偽があることが判明したとき
- カ 指定管理者の、経営状況の悪化や組織再編行為等により管理業務を継続することが不可能又は著しく困難になったと判断されるとき
- キ 指定管理者の、指定管理業務に直接関わらない法令違反等により、当該団体に管理業務を継続させることが、社会通念上著しく不適当と判断されるとき
- ク 指定管理者の責に帰すべき事由により管理業務が行われなるとき
- ケ 不可抗力（暴風、豪雨、洪水、高潮、地震、地すべり、落盤、火災、戦乱、内乱、テロ、侵略、暴動、ストライキなどの区又は指定管理者の責に帰することのできない自然的又は人為的な現象を言う）により管理業務の継続が著しく困難になったと判断されるとき
- コ 指定管理者から、指定の取消又は管理業務の全部若しくは一部の停止を求める書面による申し出があったとき
- サ 当該施設が、公の施設として廃止されることとなったとき
- シ その他、区が当該指定管理者による管理を継続することが適当でないと認めるとき

指定管理者の責に帰すべき事由により指定取消又は管理業務の停止を行った場合には、指定管理料の減額、既に支出した指定管理料の返還又は区に損害が発生した場合の損害賠償の支払い等を求めることがあります。

また、指定管理者が横浜市指名競争入札に参加する資格を有する者であり、指定期間中に横浜市指名停止等措置要綱に定める措置要件に該当する場合は、指名停止を行います。